

第 18 回春日山原始林保全計画検討委員会
議事概要

1. 日 時 令和7年2月5日(水) 13:30~16:00

2. 場 所 ならまちセンター 会議室 2・3

3. 議 事

○報告

(1)春日山原始林保全再生事業のこれまでの進捗について(資料1)

○議事

(1)令和6年度 春日山原始林保全再生事業について(資料2)

(2)後継樹育成計画の策定について(資料3-1、3-2)

○その他

4. 資 料

委員名簿

資料 1 春日山原始林保全再生事業の進捗状況

資料 2 令和6年度 春日山原始林の保全再生に関する取組

資料 3-1 後継樹育成計画の検討

資料 3-2 後継樹育成計画(案)

参考資料 1 春日山原始林保全計画(抜粋)

参考資料 2 第17回春日山原始林保全計画検討委員会 議事要旨

別 紙 春日山原始林内の植生保護柵の概要

別 図 春日山原始林保全再生事業実施箇所 位置図

5. 出席者

委員長 松井 淳 奈良教育大学 特任教授

委員(五十音順) 鹿取 悦子 芦生もりびと協会 代表

柴田 昌三 京都大学 名誉教授

杉山 拓次 春日山原始林を未来へつなぐ会 事務局長

中野 聖子 ホテル尾花 代表取締役社長

前迫 ゆり 奈良佐保短期大学 教授

山倉 拓夫 大阪市立大学 名誉教授

オブザーバー 春日大社管理部 藤井参事

関係機関 近畿中国森林管理局奈良森林管理事務所、奈良市都市整備部都市計画課、奈良市教育委員会文化財課

関係課 奈良県環境森林部景観・自然環境課、奈良県森林技術センター、奈良県観光局奈良公園事務所、奈良県地域創造部文化財課

事務局 奈良県観光局奈良公園室

6. 議 事

○報告

(1)春日山原始林保全再生事業の進捗状況

【報告事項】

- ・令和6年度までの保全事業の取組状況について報告した。

【決定事項】

- ・報告事項について了承された。

○議事

(1)令和6年度 春日山原始林保全再生事業について

【協議事項】

- ・各保全方策における令和6年度の調査・取組結果を報告した。

【決定事項】

- ・協議内容について概ね了承された。

【委員からの意見】

- ・保全方策1、2について、今後、目標を達成できたかどうかを評価する必要があるため、各植生保護柵における植生の変化や回復状況を分析すればよい。調査全体の分析結果が簡潔に示されているが、更に補足的な情報があるとよい。
- ・保全方策3について、保全方策のねらいや目的を改めて明確に記載した方がよい。また、後継樹育成の実証実験について、育成中の苗木や修復植栽後の生育状況や樹高などを明示した方がよい。
- ・保全方策4について、一連のナンキンハゼの駆除作業の効果がみられることから、今後も継続して作業を実施してほしい。
- ・保全方策6について、ナラ枯れによる被害の有無や生残など、大径木の現在の生育状況を把握するための調査を今後実施した方がよい。また、これまでの樹種別の被害状況や傾向についても取りまとめて報告した方がよい。

【意見への対応(案)】

- ・植生保護柵モニタリング調査や後継樹育成に関する実証実験について、植生の変化や回復状況、生育状況などについて分析し報告書に取りまとめる。
- ・後継樹の育成に関する保全方策について、今年度に策定する「後継樹育成計画」で目的や目標、考え方を明示する。
- ・ナンキンハゼの侵入の抑制について、伐採により駆除した個体は萌芽が完全に消失するまで観察を今後継続する。ナンキンハゼに関する一連の駆除作業は、引き続き「春日山原始林を未来へつなぐ会」との協働により取り組む。
- ・ナラ枯れに関する大径木生育状況調査については、調査対象の樹種別の被害状況を委員会で報告しており、事務局のホームページでも公開されている(令和3年度委員会資料)。今後、大径木生育状況調査を再度実施し、ナラ枯れ被害後の生残や、薬剤樹幹注入後のカシノナガキクイムシの穿入の有無などを観察し記録することを検討する。

(2)後継樹育成計画の策定について

【協議事項】

- ・後継樹育成計画について、令和 6 年度の後継樹育成ワーキンググループにおける議論や委員意見を踏まえ修正した計画案を報告した。

【決定事項】

- ・委員会での意見や指摘について、委員長と事務局で内容を検討し修正したうえで策定することが了承された。

【委員からの意見】

- ・後継樹育成計画で示す「修復」という用語について、これまでの議論・検討の経緯を踏まえたうえで、本文中で意義を説明するとよい。
- ・バッファゾーンにおける後継樹苗木の活用の検討について、若草山におけるナンキンハゼ駆除区で修復植栽が実施できると効果的である。
- ・春日山原始林保全計画の考え方や、後継樹育成計画で示す目標と整合していない部分があるので、内容を修正する必要がある。(p.7「植生保護柵の設置などの保全方策と並行」、p.9「刈り払い」ほか)
- ・修復植栽の巣植えについて、常緑樹と落葉樹をセットにして、森林の更新・遷移を意識した手法にしてはどうか。また、樹種や植栽場所によって後継樹の苗木の育て方や樹高の目安は変わることも意識しておいた方がよい。
- ・後継樹育成計画を実現するために、市民団体や教育機関、研究機関、民間企業など、多様な主体の参画による組織体制の確立、体制づくりを進めてほしい。

【意見への対応(案)】

- ・委員会での指摘や意見を踏まえ、後継樹育成計画の本文を加筆・修正する。
- ・若草山については奈良公園植栽計画検討委員会が管理方針を検討していることから、同委員会と協議のうえ、後継樹苗木を活用した取組について検討する。
- ・周辺の小・中・高等学校や大学など、春日山原始林における課外活動や ESD に意欲のある教育機関への情報の提供を検討する。また、奈良県フォレスターアカデミーなど県内の研究機関との連携についても検討を進める。

○その他

【委員からの意見】

- ・春日山原始林の衰退に備え、重要な植物の域外保全・域外育成を今後検討してはどうか。

【意見への対応(案)】

- ・後継樹育成に関する取組と並行して、バッファゾーンなどにおける域外育成について手法や実施場所を検討する。